

Ten-Shoku 天文館 + 職人

Ten-Shoku(テンショク)は、その名の通り鹿児島一の繁華街『天文館』と建築や工芸を生業としている『職人』を結ぶことによって生まれる新しいまちづくりと教育の形態です。

ご存知のとおり近年、既存ストック活用と建築分野における新たな市場として『リノベーション』が注目されています。この Ten-Shoku はそのリノベーションの考え方を天文館という地に根付かせ、建設業界に置ける『職人』さんの労働環境の改善と新しい可能性への気付きを目的としています。

郊外型 SC の進出や消費行動の変化に起因する中心市街地の衰退は全国のどの地方都市にも当てはまるといっても過言ではありません。一方、僕の住む鹿児島の繁華街『天文館』でも「街なか空き店舗活用事業」が開始されるなど空き店舗の活用に力を入れ始めています。

次に、建設業界における『職人』を取り巻く環境に関しては現場に出入りする多くは昔のような『職人』と呼べるような人は多くなくいわゆる「業者さん化」が進んでいることを感じます。またそうした状況下での労働がまねく問題として職人さんへの成り手不足や、技術の伝承の滞りが考えられます。

そこで Ten-Shoku では、年老いて現場を離れたものの技術と職人魂をもった『老職人』に注目し、『天文館』で建築的ポテンシャルの高いストック空間で、彼らの技術と心を一緒に汗を流して協働することで、大学生など若い世代へと繋げ、学んでいく活動を展開していくことを提案します。

これによって、『天文館』を築いてきた大工や左官といった『老職人』たちは新築の物件ではその腕を振るうチャンスは無く、既存ストック内における技術の部分的な活用をすることで技術の伝承と新たな市場の開拓に繋がっていきます。

また、ただ既存ストック空間の改修を行うのではなく、その空間を店舗はもちろんコワーキングスペースとしての運営方法までを総合的にプロデュースすることで継続的な関係性をもち続けていきたいと考えています。

『天文館』で『老職人』と一緒に働くことでまさに『天職』を見つけていく。それがこの Ten-Shoku となっていけばいいと思います。